



12.8
72.6.25

Eld. Koumukai
354, Kameyama Himeji

イオム通信

姫路市龜山三五四 Tel. 0793-35-2368

イオム同盟

季

家について 13

ぼくの「女・子供論」

(上巻を書く) ということである。

男がおんなについてこなべると、それが布でふくとウリのようにスタンプが消えるあの快感を感じた以上、それを他へ送りきぬつて送つて下さい。ぼく宛の通信及び自運社あては、必ずのとき、来信をまちかまえている四ナンテ、想像するだけでも大カシカナシイぢやありませんか。それにのリナシナンテひどいぬいあそらしいおもしやりのひとかけらもないしぐさです。

④ 例年は、自運特別号に参加。そこから配布されるので、すこし枚数がたりず、一部発送できぬ方が出来そ�である。どうしてもほしい本着の方は、改めてお申込み下さい。

⑤ 例年は、自運特別号に参加。そこから配布されるので、すこし枚数がたりず、一部発送できぬ方が出来そ�である。どうしてもほしい本着の方は、改めてお申込み下さい。

⑥ のり付切手の手紙をうけとつて、ぬれ布でふくとウリのようにスタンプが消えるあの快感を感じた以上、それを他へ送りきぬつて送つて下さい。ペイイカゲンのトシをした男が、ぬれ布でふくとウリが、そのままス万葉の草花と、その花言葉としやドリの花、月の花、食事と、どうかが、うなづけ、女とおはなづけ、彼女らのファイタの上にトナガシム。39歳せへシユ長毛ドリマギとミシマシトドラシム。かくはむじうはくおおまか、彼女らのファイタの上にトナガシム。のうとカタキをきのゆきとまつてある。・但し語がね、長い物語。一月、一月の間隔で要領をさ。不審弄向とときはサルートシの部をかで直譯あざむく下さる。つみがくさるの正解を申します。あらあらかしこころアソシメシナレタケホでおおむかわづか。オフランディング。おおやかくハヤシタケホ

⑦ 例年は、自運特別号に参加。そこから配布されるので、すこし枚数がたりず、一部発送できぬ方が出来そ�である。どうしてもほしい本着の方は、改めてお申込み下さい。

⑧ クロヘタ(85年を改め)住連連合冊本(田中連桂樹洋)合冊本(定価6千円)の完成と発行をしあります。7月15日より販売開始。予約金千円

⑨ 例年は、自運特別号に参加。そこから配布されるので、すこし枚数がたりず、一部発送できぬ方が出来そ�である。どうしてもほしい本着の方は、改めてお申込み下さい。

⑩ 例年は、自運特別号に参加。そこから配布されるので、すこし枚数がたりず、一部発送できぬ方が出来そ�である。どうしてもほしい本着の方は、改めてお申込み下さい。

⑪ 女の子は、ある時からへむすめになる。そして親のへ家ではなく、自分のへ家をつくる準備をはじめます。それはへ家出やへ旅立ちではない。へ家から次のへ家への移動である。

A

①はじめ、子供はへおんな／ある／は一组の男女の所屬物として、ほとんど自然に生れてきたものである。

②女は一通常男の方も一そのようにして、へ親／にならざれる。へ親としてのはじまりは、まずそのような一般にはへ子／とよぶ／、附屬物／リ嬰兒をもつたこと、不思議な閑入者／の即自化／から、である。

③子供の成長とは、嬰兒／幼児／未成年／成年つまりは親の附属物から、従属、半従属／独立する過程にはかならぬへ親は、その成長によつて親そのものでなくなつてしまふ。或は親としての質を変えさせられていく。

④ある日、子供は、気付いたときすでに自分の親としてある女／男／にとって、自分がへその子／である／と／に想念をいだく。それへの反抗がしばしば「何故生んだのか」とあるが、生んだのではなく、子供が偏愛されてきて親になつた／親たちには答えられる筈がない。

B

⑤親子関係は、はじめ全くが専知しないまま、親から一方的にはじまる。子はへ育てられる／こと／を通じて、へ子／につくられる。

⑥子がへ育つ／ことは、自分が親に対しても、親からへ意識しはじめる／こと／によって、子として親に対する／こと／いく経過である。つくられた／こと／の自分／に／つから次／にはみでていくことである。

⑦はじめ、子供にはほとんど男・女はない。だが育てられる／ことを通じて、それは男の子、女の子／につくられる。

⑧その子が女／の子／としてつくられる／ではない／その子／が女／としてつくられる／こと／とも特徴的な問題はト男の子／が性的／にはへ中性／として扱われる／こと／対照的にへおんなの性／とのもののみ／が育てられ／つくられしていく／こと／である。

⑨男の子が、あとこの性／とのとしてつくられる／ではない／こと／からすれば、それは、女／の子／ははじめから、あとこの性／としておんなの性／としてつくられる

☆ 例年は、家から／にはなれることはない。そしてはじめはへ親のへ家／ついてへ男／とのへ家／に／うつる／こと／へおんな／になる。

☆ 例年は、家から／にはなれることはない。そしてはじめはへ親のへ家／ついてへ男／とのへ家／に／うつる／こと／へおんな／になる。

☆ 例年は、家から／にはなれることはない。そしてはじめはへ親のへ家／ついてへ男／とのへ家／に／うつる／こと／へおんな／になる。

(表よりつづく) ほくの女・子供期へ

何故このような話題となると、男たちはニヤニヤして

うれしかるのか……は又何故、女たちがへ女・子供期へ

ときただけで、アナカリイキマクのか・と共通する。)

ぼくがそこでのべているのは、いまの社会構造として

みられるへおんなの状況へであり、それゆえにおとこに

とつてもきた同じ問題でなければならない。この論のな

かにはへ女を別へはない。そして問題は、それを語る

ときの、あとこの語り方開き方にあらわれたへ女差別へ

である。このニヤニヤ笑いにある。(写真運) へん集長M・A 女性

は、女・子供期を他のソジガイするが、へん集長M・A 女性

は、内包する他の女差別をあきらかにするが、なければならぬ。)

D

(16) もし、女にとつて、男の子のへ家出へのようなものがあるとしたら、つまりへ旅へがあるとしたら、それは家から出て家へ入るまでの、わざかな期間がそれだろう。しかもそれはへ旅に出るのではなく、へ家へ入るための旅、あることにあいて、男の旅と質的にちがっている。

(17) これは、旅の行手にへ家出へというやうめで、危険した社会(共同体)をみていけるか、あるいは未知の荒野の果にあり、自分の営みと参加によつてつくる、無数の聚落をみていくかの相違である。

(注) むかしモロッコ? という名画があつた。(トシガラがるも) 外人部隊の兵士の男を追つて、洒落の踊子が狂女の悲しき旅ひとり旅は、ほとんど娘時代の一時期にござられているようだ。(さもなくば、子を育て終り自己の家を確立し、更に一箇のおんなとなつた中年以上の人たちである) 例外的な女の旅も、やはり娘時代にかぎられ、それはしばしばへ性遍歴へである。

(注) もつと見本的な現実の旅にひきもどしていっても女(の)旅に出、女はそれを追うが危いきれいー典型的は、武藏とお通にみられる。武藏が旅であるとすれば、この場合お通は、家である。

よく村芝居に年一度まわつてくる旅役者に入れあげて、そのあとを追つて行方をくらました百姓のおかみさんか、半年ねつたぬうち、やつれはてて帰つてくる、といつた話を聞く。これらは、いずれも女と旅の因縁を側面から昭し出すものである。

(注) やはり山鹿文庫の整理合宿のとき(昨年四五月)、

への反対は何か? という旅を出したことがあつた。へ旅へ旅はこのようす意味で、家と女性的るものである。

E

へ補遺へ

(1) 誤解されやすいので附記すると、ぼくは、男と女との相対的な相違としてある人性へ以外に、男女差はあまり重要かつ本質的なものとは思つていなし。むしろ個

人差の方が当然があると思つてゐる。(イオム) へ家についてつづくにかいたへ大の例のように、姫姫・分娩・哺育の一定期間は、男がなしでない一女が母となつたときの天賦の時計であり、女のみのものだつづく。

④ 何かで読んだ要通りだが、例えば女が女であることは

100分比で、女性度50% 51% 男性度49% 48% (男はさの逆) だとう。ぼくはそれを次のように考へていて。

例えは、赤が女、白が男性度とすると、それが混合してあるとき、女はや、濃い桃色、男は浅い桃色である。が、

そのように混合が既全に均質化されてしまうのではなく、ムラがあるまいりオ、ではないか、

つまり、円球に例えると

■: 女性度 □: 男性度 ○: 混合

そして問題、その円球を外側から蔽つているうすい「フィルター膜」である。さにBの(7)(8)

(9)にのべたへ女の子につくられるのは、これの後天的付与にはかららない。

① 一面を刷り上げて、丁度サルートンに泊つてゐる芳村君にみせたところ(4)へ女の子は、はじめからおんなの性としてつくられるべしいうのがわからぬと云う。もつとはつきりかえび、女の子は「全身が生殖器」として育てられる。

生前のむすめを花のつぼみにたとえ、花の美しさとしていたにえるが、花はそれこそ生殖器そのものに外ならない。帝王切開? のおんなはまさにその意味でへ満身これオマンコとしてかぎりたてられ、男をへ家へにさせうのである。

④ 男の子もまたへつくられるべくとおいては女の子とかわりはない。ウーマン・リヴは男の子を敵にするのでなく、共にフィルターを破るために用いの方法をみつけなければならぬ。女たちは、自己的の眼をおつてゐる赤いフィルターに気付いてゐるか!

④ 4月29日からの新日本文大会の印象をつづるとからておきたい。それから山鹿文庫整理合宿のこと、久板印之助の墓をたずねたこと。合宿の様子、富士宮ふもとの家の打ちあげへ金龜で男性討死のことなど、されぬうちに、思ひながら、また今もほかのことをかいてしまつた。これは、ぼくに公開の質問状を出したM・Aさんの責任である。これをよんだ上で、彼女が再質問状を出してくれることを期待する。ぼくと彼女との関係深化のために。

④ 永々革命への勇士へ高尾平兵衛へ、萩原晋太郎著ハナ田(送当方負担)申込みを。へ松鹿文庫運営費500円と共千百円。へ所在などがわしい。乞參照。一と有志とそろつて訪ねる機会をつくりたい。

